

第1回中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検討会議 要旨録

と き：令和6年6月20日（火）19:30～21:20

と ころ：多可町役場2階大会議室

1. 開会

2. 教育長あいさつ

- ・全国的に少子化が進行。昨年度多可町全体で生まれた子供の数64名。
- ・部活にも影響を与えている。中町中学校バスケットボール部の廃部、サッカー部・野球部・ソフトボール部も合同チーム。部活の選択肢が年々狭まってしまっている。
- ・教職員の土日の部活指導も、教職員の働き方改革という問題から、年々実施することが難しくなっている。
- ・文部科学省の文化庁並びにスポーツ庁の方から土日の部活動の地域移行という方向性が出されており、多可町においてもこの問題を避けては通れない。
- ・教育委員会としては、選択肢が年々狭まっている中学生の土日の活動を少しでも豊かなものにしていきたい。
- ・地域の方に少しでも中学生に関わっていただくことで生きがいに繋いでいただいで、持続可能な多可町のまち作りに繋げたい。

3. 委嘱状交付（代表交付・藤井徳孝委員）

4. 自己紹介

5. 会長、副会長選出（事務局で指名）

会 長 板倉隆善委員

副会長 藤井徳孝委員

6. 基調講演「部活動の地域移行はまちづくり！」兵庫教育大学：森田啓之教授 別添資料

（意見）

- ・先日の中体連大会、ソフトテニス男女、個人、団体で実施。バレー、野球、ソフトボールは合同チームの関係で1試合のみ。サッカーは3中学校合同チームなので試合はなかった。陸上は八千代中にはない。それぞれの種目の特性で、少人数で構成できるテニスは生徒が多く集まっているが、人数がたくさん必要な競技については厳しい状況。

・他の市町村で進んでいるところはあるのか？⇒すでに地域に渡してるところはまだない。試験的にするとか、どこも試行錯誤している。

・学校のことは学校教育課、地域のスポーツ・文化活動は生涯学習課が当面は関わりながらやっていくイメージ。教育サービスから生涯学習サービスに変わっていくようなイメージだが、行政の中でもうまく整理できていない状況。

・若い世代でこれからも部活に関わりたいのは多くて4割くらい。土日で言うと8割がやめてほしいと思っている感じ。今まで自分の子より生徒のためにやってきて、それが美德だったが、今はやれる範囲で、機会があったらやってもいいかなぐらいの感じになっている。

・八千代中学校の1年生で言うと、29人のうちクラブチームに行っている子が7人。あとはどこかの部活動に所属している。部活を強制するようなことはない。

・自分の時と比べてしまうので部活を外部に委託するというのが考えられなくて他人事のように思っていたが、自分の子どもたちが直面すると思うとどうにかしないといけないと思う。すると、地域に委託するのが大事なのかと思う。

・自己負担は議論の大きなポイント。⇒部活動は指導料や会費がなかった。実際には遠征などの費用は払っているけど、指導で世話をしてもらうことに対するお金は払っていなかった。学校以外にお世話になる場合には、少なからず受益者負担が発生してくるということは予想されている。完全受益者負担にするのか、市や町がいくらか補助するのか。塾のように行きたい人が行くような展開にすると、スポーツ格差とか文化活動格差が生まれてしまう。それは避けないといけない。どれぐらい補助したり、サポートしていくかというのは、それぞれの自治体の財政力にもよると思う。

・指導者がボランティアとなると長く続けてもらうのが難しい。

・毎年指導者が変わることもあるのかと不安。⇒何らかの事情で人が変わったとしても、そのクラブとか団体の大きな方針がコロコロ変わらないようにしてあげないと子供たちがかわいそう。それが質保証とか団体のコンプライアンスに関わってくる。

・よく聞くのは、顧問の先生は未経験者ということ。指導ができないので生徒は放置状態になっていることもある。それは意味があるのかなと思う。自分のチームに来る生徒を教えていると、もっと早く知りたかった、1年生のときに知りたかったということをして口にする子がいて、もったいない1年間を過ごしたと思う。絶対勝利主義ではなく、それまでの練習してきた過程を大事に考えなさいと指導している。

・たくさんの生徒が参加しているので温度差がある。葛藤をいろいろ抱えながら試行錯誤してやっている。

・今後部活を見たら話はずいぶん違ってくると思う。今は部活があって、その他の地域活動みたいな感じのポジションでやっているけど、いざそれを部活動で見るとなったら、大変だと思う。

- ・スポーツクラブ21のいいところは、小学生から大人まで一緒の空間でするところ。生涯スポーツとして続けてほしいと思って活動している。
- ・文化連盟は、いろんな文化サークルがあるので、いろんなお手伝いはできるかなと感じる。自身は合唱をやっているので、子供たちと一緒に歌うことができるんじゃないかと思っている。比較的歌の方は何かできそうな感じがする。
- ・国は令和5年から7年の間に地域移行を進めるとしているが、多可町は中学校の統合が令和8年4月に控えているので、そのときに良い答えが出るようなことができればいいと思う。
- ・今の段階で全町的な動きができるところはいいが、各区にチームがあってそれが一つになるなど、送り迎えのことも含めて、いろんな問題をクリアしていこうと思ったら時間が必要。
- ・今後指導者をどうしていくかが大きな課題。指導者講習の費用を個人で負担するか保護者の負担にするかも課題。
- ・自分の団体では、指導者という資格持ってる方はない。スポーツクラブ21の発足の理念からすれば、受け入れることは可能。ただし、行っていることの範囲の中でという条件がつく。なおかつ活動は夜になる。そういうことを調整しながら、可能なところを受け入れる、無理なところはちょっとできませんねという話をするしかないのかなと考えている。
- ・週に1回や2回程度のことでもよいのか。こういうことをお願いしますと言っていたら、何とかならないかと考えることはできる。
- ・教育的なサービスから生涯学習的なサービスにというのは、よりサークル的な軽い活動に変わっていくように感じた。それでもより高みを目指して頑張りたい者もいれば、楽しく活動したい者もいて、選択肢が必要になってくると思う。
- ・サークル的な部分を担う人材が本当に地域で育つのか。今でも少ない選択肢がもっと少なくなってしまうのか不安。⇒それぞれの市町の人口や距離感によって違う。部活動でも選択肢がないのが現状。今はここまでしかできないということを思い切っして示す必要がある。もっと小さな自治体では、種目をいくつかに限定してやっている。これしかできないので、それ以外がしたい場合は各自の責任で探してくださいと割り切っている。割り切りが大人に迫られる。理想論では絶対に選択肢が多い方がいいけど、お互いが取り合いになって、みんな駄目になっていくこともあり得る。
- ・子どもに聞くことは大事だが、子どもにその判断力はないと思う。大人が責任を持って、この2年ぐらいかけてじっくり決断をする必要があると思う。人口的なものも含めて相当厳しい選択をしないとイケない。多可町モデルを考えるのが重要なテーマ。
- ・部活動指導員のメリット・デメリットは？⇒経験者の顧問が配置できないときに、サッカーを分かっている方が、教育的な配慮もしながら采配してもらえるのはすごく

ありがたいし心強い。こういう形で地域の方に入ってもらい指導をしてもらうことは、これからの部活のあり方としてはありだと思う。

- ・昨年サッカーがすごく活躍して大会でいい成績を収めた。指導員の力が大きかったと思うが、一方で受ける側になると自分の家庭もあるししんどいだろうと思う。

- ・今回地域展開という話が出てきた背景には、教員の勤務時間のことがある。部活の顧問をすることは朝夕で3時間ぐらいの時間外が発生する。やらせていいのか悪いのかははっきりしてほしい。やるからには責任持ってやらないといけない。仕事だったら、手当を出さないといけない、代休にしなければいけないとかそういうこともいろいろある中で、何となくやってくれと言われてもつらい。地域移行という話が出始めて、そもそも教員がしなくてもいいとなったときに、しないという選択をする教員にしなさいとは言えない。

- ・地域展開する上で、現在地域で活動している人や学校の先生への期待は大きい。どのくらいの協力が見込めるかということは、今後調査していく必要がある。先生ではなく、一人のサッカーの好きな地域指導者として関わってもらえますかのような聞き方になる。そして、そういう人や団体を束ねる組織を作って、そこで体制を推進していくなど、どんなやり方をしていくかを議論する必要がある。

- ・神戸市は朝練なしの夕方5時まで部活というやり方をすると聞いた。そうすると子どもたちが十分にできなくてかわいそう。子どもたちが宙ぶらりんにならないように。

- ・今年から卓球が地域クラブとして中体連に登録された。初年度で問題になったのは、会議のあり方。平日昼間に地域の人が会議に出席できない。バスケットの方がぜひやりたいと言っているけど、活動は夜。いろいろと課題はある。⇒これまでの枠組みと違うのでいろんな軋轢が生まれている。なかなかうまくいかないこともあるが、だからといって、今手を上げてくれている団体に令和8年まで待つというのももったいない。準備段階で試行的にもやっていかないといけない。一方で、新しい選択肢を準備すると、今何とかできている部活が存続できなくなるという心配もある。手を上げた団体に、令和8年まで待つてもらい、その間に周知を含めたいろんな準備を進めていくというのも一つの方法。

7. 議事

- ・「中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検討会議設置要綱」
- ・ガイドラインの概要の説明

- ・この会として、中学生のスポーツ・文化活動の地域展開検についての具体的な方策を検討していくという点について、共通理解を持って進めていくことで了承。

- ・地域展開は、基本的に学校を使ってするつもりか？任せたい人のホームグラウンドに参加する方法もあるのか？休日に学校でする場合などは、わざわざ鍵を開けてもら

ったりするような必要が出てくるのか？実施場所によって、昼するのか、夜するのかというようにも出てくるのか？⇒基本的には学校施設を使用するのが、子どもたちは一番参加しやすい。ただ、学校ではできないけど、現在の活動場所、時間ならできるといような場合もあるので、それぞれのケースで調整が必要。学校で、この時間でできないから無理、ではなく、この条件ならできるを増やしていくことが子どもたちの選択肢を増やすことに繋がると考える。

- ・学校に照明施設を整備する予定。
- ・次回の日程は 8月22日(火) アンケートの案を準備する。

8. 閉会